

**山梨県歯科医師連盟****連盟ニュース 第37号**

□発行

山梨県歯科医師連盟 甲府市大手 1-4-1

TEL : 055-252-6481 FAX : 055-253-0854

□発行人 内藤 敏雄 HP : <http://ydca.jp>

□編集人 鶴田 好幸 岩間 宣仁

山梨県歯科医師連盟機関紙

### 新任の挨拶

この度、名誉ある山梨県歯科医師連盟会長にさせていただき、感謝申し上げると共に責任の重大さに身の引き締まる思いであります。7月1日より就任いたしました。政連の理事を2期4年、連盟の理事長を通算3期6年を務めさせていただきました。この間に連盟組織には大きな変化がありました。何と云っても一番大きかったのは、日歯連盟の一連の不祥事でした。このことは我々歯科医師にとって忘れる事のない事件でありました。これによって多くの先生方は連盟を去りました。この連盟を立て直したのは当時の大久保会長（現日歯会長）を初めとする連盟役員と、このままではいけないと立ち上がった全国の会員の先生方でした。

まず、取り組んだのは、連盟とは何か、連盟は何をするのか、という原点に立ち返る事でした。原点に立ち返る事から検討して『日歯連盟改革報告書』が作成され、この報告書に沿って新しい連盟活動が始まりました。

今までは連盟なんかあっても、なくても変わらないという意見の人もいました。私自身も連盟の存在意義をあまり深く考えていなかった気がします。そこで大久保会長は連盟の在り方をもう一度見直し、多くの時間を費やし、それを『日歯連盟規約』の前文に表現いたしました。恐らくいまだにこの前文をお読みになった先生方は少ないと思います。『我々は歯科医療の最前線に位置し、国民の健康保持、増進に寄与せんとする日本歯科医師会会員の希求を、政治活動によって実現する。この実現には歯科医療経営の安定化が不可欠であるが、会員の共通利益を求めただけでなく広く国民のための歯科医療を目指す公益の実現にある。』（一部抜粋）としております。自分の為に連盟は何をしてくれるのか、何の利益があるのかだけで連盟があるわけではないと述べています。

この原点に立って、山梨県歯科医師連盟も改革を進めて参りました。基本的な形は出来上がり、これをさらに発展していくために、微力ではありますが、全身全霊で課題に取り組む覚悟でありますので、皆様方のご指導、ご支援を賜りますようひとえにお願い申し上げます。

諸角 三千夫

### 退任の挨拶

梅雨の候、先生方におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私6月30日をもちまして山梨県歯科医師連盟会長を退任いたしました。在任中は会員の先生方に連盟活動にご協力を賜り誠にありがとうございました。

平成17年4月より4期8年3ヶ月会長を務めさせていただきました。振り返ってみるとこの8年余りは連盟にとっては内外ともに激動の8年間であったと思います。就任当初はその前年に発覚した、いわゆる「日歯連事件」の影響で全国的に会員の連盟に対する不信感が頂点に達していた時期であり、退会者が続出していました。本県においても例外ではありませんでした。私はまず、連盟の信頼回復を第一に努力してまいりました。その結果、ここ数年は退会者もほとんどなくなり、入会者、再入会者も増えつつあります。しかし、本県の連盟入会率はいまだに全国平均を下回っており、このことは私の力不足であり、責任を感じております。

また連盟の外でもこの8年間は激動の時代でありました。総理大臣も8人替わり、その間に衆議院議員選挙3回、参議院議員選挙3回、政権交代2回と取り巻く政治状況がめまぐるしく変化し、連盟としても、その時々に対応に苦労しました。しかし、常に予党の国会議員とは良好な関係を築き、我々の主張を届けることは出来たと思っています。今後は国会議員のみならず県議会議員、更には各支部に於いても我々の活動を理解してくれる首長、地方議員とも関係を築いていくなど連盟活動のすそ野を広げていく必要があると思います。

この8年間で一応の活動の形は作りましたが、まだまだ不十分な点、改善すべき点、やり残した事が多くあります。これらの課題につきましては、順次次期執行部に申し送りしていくつもりです。

会員の先生方の今後も変わらぬご支援とご協力を引き続きよろしく願いいたします。

長い間、本当にありがとうございました。

内藤 敏雄